

●障害者支援施設ウインドヒル 〒761-0450 香川県高松市三谷町3851番地 TEL 050(3734)6707 FAX 087(888)4278
●グループホーム風見の家 〒761-0450 香川県高松市三谷町3890番地1 TEL・FAX 087(888)2557

管理者 松原 正子

●発行/社会福祉法人ポム・ド・パン
●発行日/2018年1月31日

第12回 地域とのつどい



平成29年11月12日(日) 第12回地域とのつどいを開催しました。

今回は加茂三曲協会様をお招きしました。尺八と琴の演奏は会場全体を和の落ちついた雰囲気に包み込み、利用者もリラックスした表情で静かに聞いていました。



ポム・ド・パンの理念

障害があっても、誰からも愛される人に成長できるように、丁寧に寄り添って関わります。

障害があっても、正しいことを根気よく伝えることにより、何歳になっても成長することを信じます。

障害があっても、できることが増えるように、様々なことを獲得できるように、一貫性をもって、継続して支援します。

障害があっても、その方の得意なことを、大好きなことを見つけ、これを通して、生活基盤を作ります。

地域とのつとめ紹介



午前中のセレモニーは、地域の方々と一緒に、歌とプレゼントで日頃の感謝の気持ちを伝えました。



加茂三曲協会様による尺八と琴の演奏。皆さんとメモリアックスして聞いていました。



三木先生による独唱。今回初の野外ライブ！力強い歌声は大迫力でした。



新設されたオレンジドームが大活躍！ゆったりとしたスペースで様々なバザー店で賑わいました。



子供たちに大人気のあったシャボン玉と、実際の作業を体験できるあき缶つボリコーナー。後ろのお絵書きコーナーでは、芸術が生まれそうな予感！



学生ボランティアの皆さん。笑顔がとて素敵で、元気いっぱい地域とのつとめを盛り上げてくれました。



今回で12回目の開催となる地域とのつとめ。年々足を運んでくださる方も増え、大盛況の内に無事終わることができました。心より感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひ致します。



ウインドヒル・風見の家の主な行事

12/19
(火)

クリスマス会



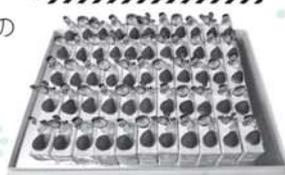
ウインドヒル交流棟にてクリスマス会を開催。保護者の方、地域の方、ボランティアさんも多く参加され、和やかな雰囲気でした。恒例のユニット発表会は各ユニット趣向を凝らした出し物で盛り上がりました。またとってもおいしいルーヴのケーキを皆で食べ満足でした。

今年も保護者会より運動グッズや木の教材やゲームのプレゼントを頂き、また橋輝さんからの手袋・マフラーのプレゼントもあたたかい気持ちになりました。思い出多いとても楽しい時間を過ごすことができました。

生活支援員 松原 美恵



ルーヴのケーキ



Merry Christmas★



ユニット発表会



ありがとうございます
ございました

保護者会よりたくさんの
クリスマスプレゼントをいただきました。
大切に使用させていただきます。

10/13
(金)

徳島遠足



大型バス2台で、徳島動物園に行きました。園内ではグループ毎に分かれ、それぞれにお弁当を食べて園内を散策。間近に見る動物にみんな興味津々。普段見られない空間と動物とのふれあいに素晴らしい笑顔を見せてくれました。楽しい時間を過ごす事ができました。

生活支援員 齋藤 由佳



12/12
(火)

インフルエンザ予防接種

インフルエンザ予防接種を実施しました。今年はワクチンが不足しているとのことでしたが、のむら先生の配慮で無事接種することができました。今シーズンもインフルエンザ発症者が出ないことを願っています。注射の苦手な方も「経験は力なり」で大声をだすことなくスムーズでした。

主任看護師
金川 恵子



11/25
(土)

とっておきの芸術祭

今年2度目の出品となりました。水墨画より3点、アートリンクよりオリジナルTシャツと絵画を6点、どの作品も力作に仕上がりました。表彰式では、利用者が自信に満ち溢れた装いの中、保護者の方が緊張している様子でした。今後も日頃の成果を発揮できる機会には、出品していきたいと思いをします。

主任生活支援員
和田 真由美



12/27
(水)

ゆうあいピック卓球大会

高松市総合体育館にて卓球大会に参加。団体戦は惜しくも2回戦敗退。個人戦では皆奮闘し、風見の家の朝日さんが5位入賞を果たしました。

生活支援員
箭崎 順一



職員研修

● 自閉症療育 ～太田Stage評価～ 鏡先生 (8/29)

研修を受けて実感したことは、成人の方への生活を支援している私たちが、太田ステージによる評価(基準)を踏まえて、利用者の認知発達段階を知り、利用者一人一人が社会の中でどこまでの概念を持っているかを見極め、その結果「生活支援の中でどう活かす事ができるか」を実践することが十分にできているのだろうか?と自問自答をしました。

大切な議題を与えてくれた研修でした。

副管理者 鈴木 克幸



● A L S O K 職員による危機管理講習 (9/8)

総合警備保障株式会社参事の久保氏を講師に迎え、①防犯グッズ(さすまた等)の基本の使い方。②暴漢対処時の連携。③制圧、拘束練習など実践に沿った講習を受けました。「単独でのさすまた使用は効果的ではない」「複数で首と脇に掛けて押す」「足首を重ねて抑えると動けない」等、初めて知る事ばかりでした。この経験を活かし利用者、職員が安全に生活が送れるよう努めたいと思います。



生活支援員 吉本 唯人



● 星越Dr による障害者と薬物について (11/8)

協力医である星越医師のお話を聞きました。今回は自閉症の診断名で保険適用されている「リスパダール」について専門的なお話を聞くことができました。本人にあった適切な薬として種類・量・飲み方などの説明。薬物を正しく活用することで本人の生活が豊かになり、穏やかな日々を暮らすことが期待できるノウハウは目からウロコでした。

主任看護師 金川 恵子



● 虐待防止研修 職員グループワーク (11/20)

高松市障がい福祉課の職員3名を招聘し、虐待防止研修を実施。当事者が虐待をしているという自覚が無いと言う事がもっとも怖く、同じ職場で働く職員の様子、変化に気付き、お互いに情報を提供する事、管理者に報告・相談する事が一番早く虐待防止に繋がると感じました。

生活支援員 村川 文生



研修報告

・四国地区知的障害関係研修大会

(8/2~3)

松山市で四国地区知的障害関係職員研修会に参加。講演「組織が明るく元気に」では目標をしっかりと認識し自ら行動して常に改善の視点を持つ事、考えるだけではだめで、勇気をもって前に一歩踏み出し、変わって行かなければ成長できない。前向きな態度で「気力」を生み出し、当事者意識と責任感を持って行動しなければと感じました。

生活支援員 村川文生

・第55回知的障害関係職員研究大会(名古屋)

(9/27~29)

名古屋国際会議場での研修に参加。平成30年4月～、障害者総合支援法3年後の見直し、報酬の改訂等法制度が変わる年になります。分科会では、強度行動障害のある方の特性とその支援方法について基礎的な事も学びました。今回の研修を受け、利用者の生活の質や支援の向上につなげていきたいです。

主任生活支援員 和田 真由美

・九州・山口・四国自閉症施設研修会

(10/10~11)

福岡市で開催。志摩学園での施設見学では眺望の良いカフェをB型就労として展開、ウインドヒルでも小さな飲食店があればと感じました。また、今回分科会では初めて事例発表をして、I氏の事例からウインドヒルの支援方法、本人の成長や変化を紹介しました。良い経験ができました。他施設の現場で働く職員とも多く交流が持て、現場の視点で意見交換もでき有意義な研修会でした。

生活支援員 鎌田 泰明

・全日本自閉症支援者協会に参加して

(11/1~2)

基調講演に参加しました。鳥取大学教授井上雅彦氏と香川大学教授坂井聡氏の講演はどちらも聞き入ってしまうような興味深い話でした。新しい知識を得て、自分の子供の障害にまた向き合えそうです。こういう大会で最新の情報や考え・流れを知ることは保護者にとって大変意義のあることだと思いました。

保護者 細川 文子

ご寄付を
いただきました。

～暖かなお気持ち～

ありがとうございました。
今後ともよろしく願います。

三和電業(株)高松支店様より



高松北ロータリークラブ様より



かまどベンチ設置・贈呈式 (8/3設置、9/25贈呈式)

高松北ロータリークラブ様より、防災かまどベンチをご寄付いただきました。普段はベンチとして使用でき、災害時は炊き出しなどで活躍が期待されるかまどとして使用できます。原木しいたけ購入者の一人として応援してくださっている地域の方からのご尽力で繋がった高松北ロータリークラブ様に感謝致します。あつてはならない災害ですが、もしもの時には地域の方々と力を合わせて乗り切りたいと思います。

事務員 松原 健太

地域とのつながり

三谷地区文化祭(芸能発表参加)

11/3
~5

今年もみんなで参加しました。最終日の芸術発表会では、間まなみ先生と一緒に恒例の「笑び～体操」を元気いっぱい披露。一緒に踊ってくださる方も多くおられ、三谷地区の皆様とのつながりを感じる事ができました。

生活支援員 谷本 展恵



思いやりネットワーク事業 子育て支援相談に参加して

10/18

お子様の発達の遅れの診断を受けて間もないであろう2歳児をお持ちの若いお母様方が、けなげに前向きに自分の立場を受け入れて前へ進もうとする姿に心打たれました。心配事は食事や排泄等、年齢相応の悩み事だった様に思いますが、これからの長い年月、悩み事も幅広くなっていくと思います。この先のお母様方のご苦勞を考えると、複雑な心境ではありますが、ポジティブに人生を歩んでもらいたいと切に願うばかりです。

保護者 磯部 洋子

福祉のつどい2017 サポート高松大ホール

11/7

シンガーソングライターのミミカさんのミニライブや「生きているだけで100点満点」奥山佳恵さんの言葉。障害のある方々によるダンスに和太鼓の演奏にそれぞれの障害の垣根を越えて声援や拍手を送り、ホールは大輪の笑顔の花がいっぱい咲いていました。

生活支援員 石田 恵美



グループホーム“風見の家”にスプリンクラー設置

グループホーム風見の家は平成24年4月1日に開所（開所時はケアホーム）しましたが、当時の消防法施行令ではスプリンクラーの設置義務は、延べ床面積275㎡以上の施設となっており、この面積要件を下回る風見の家（250.61㎡）は、スプリンクラーは設置せず、面積に制限なく設置が義務付けられている自動火災報知設備・火災通報装置・消火器を設置しています。その後各地の高齢者グループホームで火災による人身事故が相次ぎ、平成25年に同法施行令が改正され、面積要件（延べ床面積275㎡以上）が撤廃され、新基準は平成27年4月1日（既存施設の場合は平成30年4月1日）から適用されることになり、この基準に適應させるため、スプリンクラー設置工事を、昨年の11月1日～12月20日までの工期で実施して、所轄の消防検査にも適合しました。



ウインドヒルに研修に来られました

高松市こども園運営課保育士研修 ～感想ご紹介～

(10月24日)

一番印象的だったことは、施設内どこへ行ってもきれいで、整理整頓されているということでした。障害がある・なしに関わらず、安心して生活していくためには、とても大切なことだと改めて感じました。今回の研修で「心を育てる」ということが一番大切なのではないかと思いました。幼児期から、少し先の姿、大人になった姿をイメージしながら、自分のやってきたことを見直し、より伝わりやすい支援方法を探っていきたいと思います。



▲「作業(段ボール緩衝材貼り)の見学」

自己紹介を紙に書くゲームを取り入れ、見通しが無い不安や戸惑いの中で過ごす不安を実際に体験することができ、支援が必要な子どもの気持ちに寄り添えたと思う。日々の保育の中でどうして良いのが悩み、戸惑うこともあるが、研修を通し相手の状況や背景、認知レベルを知ったうえでこだわりを悪く思うのではなく良い方向に変えていくことが大切だと知った。また、「障害は治すべきものではなく、上手に付き合っていくもの」という言葉も印象的だった。あきらめず繰り返し取り組み、できる可能性を伸ばせるよう支援していきたい。



太田ステージ評価を利用しながら、相手の認知レベルをまずは知ることが大切であり、それによって言葉かけが変わり、相手との信頼関係が築けていける。一貫性をもった関わりをしながら、とことん付き合っていきたい(コツコツ継続して)と思った。

香川県内入所施設 情報交換会

(10月26日)

- 香川県内に入所施設が11箇所あり、日中の『生活介護』と夜間の『施設入所』と呼ばれるサービスを24時間通して提供しています。

昨今の障害福祉情勢は目まぐるしく変化し、福祉制度の変革も多様化しています。

今後、県下の施設には、細やかな情報交換をしつつ、切磋琢磨していくことで、適切な施設運営や利用者の豊かな生活の実現が求められます。

そこで、今まで以上に施設間の親睦を図り、共通理解を深めていく必要があると感じ、初めてこの会を招集しました。会では、施設の実態調査アンケートを実施に向けた討議をして、現状把握するとともに、基本情報・支援方法について話し合いました。



管理者 松原 正子

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会会員 (敬称略・順不同)

◆個人会員 平成29年度 平成29年9月5日～平成30年1月31日
羽間由紀子 三好美千代 津嶋 活至 万野 妙子 大門 亘

◆団体会員 平成29年度 平成29年9月5日～平成30年1月31日
㈲筒井左官工業所

平成29年9月5日～平成30年1月31日現在、以上の方々にご継続及び新規にご入会頂きました。平成30年2月1日以降にご入会の方々のお名前は次回の会報に掲載させていただきます。本当にありがとうございました。

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会のご案内

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会は、当法人が運営する障害者支援施設「ウインドヒル」とグループホーム「風見の家」をサポートしています。

今後長年にわたり、利用者一人ひとりを大切にしたい理想的な療育を行い、施設の整備を継続的に発展させてゆくには、より多くの方々のご支援を必要としております。

何卒、私達の趣旨をご理解いただき「社会福祉法人ポム・ド・パン後援会」にご入会下さいますようお願い申し上げます。

年会費 個人会員 一口 3,000円 団体会員 一口 10,000円
ご入金方法 郵便振替 口座番号 01690-3-74305 口座名称 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会

あたたかいご支援、本当にありがとうございました。

苦情解決のお知らせ(平成29年10月1日～平成30年1月31日) 苦情受付件数 0件

保護者会コーナー

「大久野島一泊バス旅行」



11月30日から1泊2日でうさぎ島と呼ばれる大久野島へ。

移動のバスの中では親達が近況を話したり、子どもの様子を話したりする声や笑い声がとぎれる事はありませんでした。

フェリーを降りた所からたくさんうさぎに迎えられる、宿舎に荷物を置くときすぐ散策へ。エサを手につとたくさんうさぎが集まって来ました。子ども達は逃げたり、怖がりたりする様子はなく、たんたんとエサをあげる子、ポンと投げるようにあげている子、うさぎに近付きしゃがんであげている子と皆ゆつたりと楽しんでいるようでした。島には戦争の遺跡がたくさんあり、展望台に登ったり、坂道、山道を歩きました。子ども達が元気に歩く後ろを親がついていっている家族が多く、「待つて」「そこで止まって」という声がよく聞かれました。食事の時にも子どもが食べ終わるのが早くて待つている姿があり、「待つ」という姿勢が身に付いていること、日頃の運動で鍛えられている様子が見られました。移動もスムーズでいき、2日間通して子ども達の成長ぶりがよく見え、嬉しく思いました。親達は、皆喜んでいようでした。準備して下さった役員の方々、ありがとうございました。

沖野 貴子

編集後記

地域とのつどいをはじめ、様々な行事、活動を紹介いたしました。たくさんの方々の温かいご支援に支えられているウインドヒル・風見の家を今後ともよろしく願い致します。



モモ♀
2006年1月生まれ



松ぼっくりの
ポムです。 松ぼっくりの
パンです。